

教員最初と最後の研究授業

研究授業、公開授業、取材授業

教師の最も本質的な仕事は授業を通しての教育です。授業力を高めるためにどの学校でも取り組んでいるのが研究授業です。主に校内の先生方で、ある先生の授業を見学し検討会で授業の評価を行うことが一般的な方法でしょう。外部から講師の先生をお呼びして授業を検討してもらう場合もあります。

さらに、校内の先生方に限らず、外部の方にも授業を参観してもらい検討することもあります。これを一般的には公開授業と呼んでいます。研究授業も大切な教師研修ですが、公開授業の方がより多様な方々の参加により鍛えられる場にはなります。形式的なことに流れなければ、どちらも教師の成長に大きな役割を果たすものです。

それでは、私は39年間の教師生活で何回研究授業、公開授業を行ってきたのでしょうか。

研究授業 13回

公開授業 18回

です。その他にメディアからの取材授業が15回ほどありました。

研究授業について

担任をしている期間は、国語、社会、算数、生活、総合的な学習などの教科や活動で実施し、社会科専科の期間はもちろん社会科の授業で実施しました。研究授業はできるだけ多くの先生が行うことが望ましいと考えます。39年間で13回の研究授業は3年に1回の割合でした。比較的若い時代に行っていたので、多くのことを学ばせて頂きました。

公開授業について

専門教科が社会科なので、やはり多くは社会科で実施してきました。特に日本で実践、研究が模索されたNIE (Newspaper in Education) に1990年ごろから関わってきた関係で、NIEの公開授業が多かったです。

米国のNIEの第一人者、米国新聞協会のベティ・サリバン氏が来日され参観されたのが「世界のニュースをキャッチ」(聖心女子学院初等科6年、1994年10月6日) でした。

韓国新聞活用学会が来日され参観されたのが「ワールドカップから広がる世界」(聖心女子学院初等科5年、2001年1月26日) でした。

日本NIE学会が企画し参観されたのが、韓国の李貞均先生との共同授業「親子で新聞を楽しもう (ファミリーフォーカス)」(聖心女子学院初等科5年生と家族、2012年11月23日) でした。

取材授業について

メディアからの依頼により学校が許可し授業を取材されたのが、取材授業です。社会科が多く、NIE、国際理解教育、メディアリテラシーなどの分野での取材がありました。

NHKにより「シンポジウム メディア教育を考える メディアリテラシーと新聞・放送」（2001年11月17日放送）のため取材授業が行われました。

教員最初の研究授業

勤務初年度にはどの学校でも新任の研究授業が行われています。私も1981年3年生の社会科で「自分が住んでいる地域と出かけた地域の比較」という研究授業を行いました。私立小学校の児童はいろいろな地域から登校していますので、このような授業を位置付けました。



教員最初の研究授業 1981年

以下のような授業記録が残っていました（『第19回 東京地区研修会収録』日本私立小学校連合会編、1983年2月発行より）

3年社会科実践記録

題材「みんなが調査した地域の様子」

1. 題材の目標

子どもたちにとって楽しい授業は、社会認識の形成にとって不可欠である。既存の教科書や副読本や資料集から抜け出て、子ども自らが自分の体全体を使って作成した資料を使って授業することはとても楽しいにちがいない。

児童が各自調査した地域の実態及びすでに学習した自分の家のまわりの地域性、港区の地域性との比較を通して、地域にはそれぞれの風土があり、それに適応した多様な生活形態があることを理解させる。また、いろいろな地域を調査するにはどのような方法があるか考えていく。

2. 題材の授業展開の角度

発表者が調査した地域で、おもしろいところ、ふしぎなところをあげさせ、

子どもの観察から出発させる。その地域の一般性と特殊性を把握させ、発表者が調査した地域のように児童が以前調べた学校のまわりの様子、自分の家のまわりの様子、港区の様子、自分が調査した地域の様子と比較しながら、共通点・相違点を考える。また、4年のいろいろな土地の暮らし、5年の産業学習との関連を考えて、例えば松本では文化事象を通して歴史的におさえたり、土産物を通して地域の伝統産業をおさえたり、コンビナート地域では石油化学工業の関連をおさえたりした。

方法論的には児童中心の学習形態をとる。児童自身が作成した資料に基づく児童の発表、レジュメ作成、討論を中心とする。

3. 題材の指導計画（3時間）

第1時 発表予定者が調査した地域

- 下田・軽井沢（2つの観光地化されている地域の比較）
- 那須（避暑地、伝説のある町として）
- 能登半島（半島の様子と輪島塗などの伝統的な産）

発表はそれぞれの特産物を見せながら行う。発表者以外の方は、調査の苦勞、楽しみを発表。

第2時 発表予定者が調査した地域

○豊前・徳山・広島（特に徳山のコンビナート地域での石油と化学工業の産業の関連。海を利用した外国からの輸入。港区との共通点）

○新宮（紀伊山地はすぎやひのきの山地であることをおさえ、山を利用した材木工業がさかんであることを考える）

○松本・八ヶ岳高原（歴史的な町と避暑地として観光化されつつある町との比較）

発表は発表者があらかじめ作成したレジュメを児童各自に配布し行う。発表者以外の方は、調査の苦勞、楽しみを発表。

第3時 発表予定者が調査した地域

- ニューヨーク・アスペン（アメリカの都市と農村の比較）
- ハワイ・バリ島（ハワイとバリ島の人々の生活のちがい）

発表者は写真などを利用して行う。発表者以外の方は、調査の苦勞、楽しみを発表。

4. 教師がおさえるべき点

児童の調査が全国各地に及んでいるので、教師の側に第1次、第2次産業の見取り図が用意されていると、5年生の学習に向けて基礎ができる。また、各地域で何を見るのかを明確にし、その特殊性と一般性をしっかりと把握する。

○自然条件を年間を通して特徴的におさえる。

○地域の人々の暮らしを生産と労働の観点から構成する。生産力向上のため

の工夫と努力は必要。

○地域の子どもの遊びや生活の様子を調査項目の中に明確化すべきであった。

5. 第2時の授業

学習活動と内容及び教師の発問	指導上の留意点	資料
<p>1. 前時発表した地域と本時発表予定地域の確認</p> <p>2. 児童の発表、質疑、討論</p> <p>(1) 豊前、徳山、広島と比較 徳山の石油について 発問1 なぜ徳山に大きな石油会社があるか。</p> <p>(2) 新宮 東京都と比較 発問2 新宮はどんな産業がさかんだと思うか。</p> <p>(3) 松本、八ヶ岳高原 地域の特徴と名所の紹介 発問3 なぜ清里には若い人が多かったか。 発問4 なぜ松本の名所として学校があると思うか。</p> <p>3. 調査の苦労、楽しみについて</p> <p>4. 次回発表予定地の予告</p>	<p>日本地図、児童資料18—(1)で確認</p> <p>あらかじめレジュメを配布。おもしろいところ、ふしぎなところなど自由に考えさせる。港区の海沿いに火力発電所があることと関連させて考えさせる。</p> <p>国語の「むささび星」の単元で吉野のすぎが出てきたことを思い出させる。</p> <p>軽井沢との比較 町の様子の変化にふれる。 学制期の学校の歴史についてふれる。</p> <p>発表者以外の児童に調査の苦労や楽しみについて自由に意見を出させる。</p>	<p>日本地図</p> <p>OHP 児童が作成した新宮市の略図</p> <p>OHP 児童が作成した旅行のコース 松本市清里の略図</p>

教員最後の研究授業

勤務最終年度にやはり社会科で研究授業を行いました。最後の研究授業は姉妹校である兵庫県宝塚市の小林聖心女子学院小学校との合同研究授業でもありました。ですから、この最後の研究授業は公開授業でもあったのです。

詳しい授業のやりとりの様子をご紹介しますが、当日の指導案（一部省略しているところもあります）で最後の研究授業の様子をご紹介します。



教員最後の研究授業 2019年